

琉球大学学術リポジトリ

1972年の沖縄返還時の有事の際の核持ち込みに関する「密約」に係る調査関連文書No.2

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 核持ち込みに問題, ジョンソン次官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43897

C

C

72

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

69年 7月 4日 21時 30分 米 国 発着
 69年 7月 5日 10時 50分 本 省 着

外務大臣殿 下田 大使 臨時代理大使 総領事 代理

大臣・國務長官第2次会談

第1723号 特秘 大至急

往電第1712号に関し

4日午後2:35より4:10までの会談は極めて熱心かつ建設的に進められたが要旨次のとおり。要綱は帰国後大臣一行より報告する。(傾ぎ上同一話題は時間的前後と関係なく取りまとめて記した。なお出席者は米側にブラウン次官補代理が加わった以外第1次会談と同じ)

1. 軍縮問題

副頭ロジャース長官が新軍縮庁長官ジェラルド・スミスをしようかい。「ス」より日本のENDC加入をかん迎し、近く開始予定の戦略兵器軍縮問題での協力を求め、また日本のNPT早期署名を要請したのに対し、アイチ大臣よりENDC加入につき謝意を表すると共に日本も軍縮問題に大いに役立ちたい気持なること。NPTについては政府は国会を円かつに通るようしん重に国内取りまとめ努力中で多少の時間はかかるかも知れない、と述べた。(「ス」はこれにて退席)

極秘

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

2. アジア情勢

(1) (朝鮮半島) 大臣より「ロ」長官の求により、アジアの緊張に関する見解。半島での危機発生の可能性は認めるが、その度合及び緊迫性につき多少日米間で見方が異なるようだと述べた。ジョンソン次官は1950年の如き大規模侵入が起きないのは在韓米軍の存在及びオキナワ基地の抑止力にあり、抑止力が低下したとの誤解をピョンヤンに与えることの危険性を指摘、グリーン次官補より最大の問題は韓国側の心理で、北鮮はE.C./2/機事件の如きちよう発行為により日米韓の離間をねらつて来るおそれあり、短期的には最大のきよいは中共でなく冒険主義的かつ韓国のやく進をねたむ北鮮であると述べた。「ロ」長官も韓国要人がこそつてひ覬的なことを自分に言うに指摘。(本使から事態は50年当時よりはるかに改善されていると思ふ旨くり返しておいた。)

(2) (中共の核能力) 「ロ」長官の質問に対し大臣より大たんな私見としては中共内政の困難もありまだ10年位は現実的きよいとなる核戦力は無理ではないかと述べたところ。長官は米側の得た情報では、中共の開発はより早く長きよ離ミサイルは1973-74年ごろでき上ると見ている。またソ連ではそれよりもさらに早く完成すると考

極秘

大臣官審審長
 秘書文会管給
 総人管厚計
 国管調析
 参領旅移
 北京
 中国
 北
 一
 参西東洋
 西直
 参書近ア
 次総経国万
 国
 政二
 国一選
 参条協規
 参政経科
 軍社専
 参道内外

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

極秘

えているようだと述べた。

(3) (基本的事実認識)

グ次官補より10年以上にわたる日米の極めて密接な協議によりBASIOな情勢判断は同じといつてもよく、これを反えいして米国が事に当つて取るべき行動に日本が賛成することが多かろうと述べた。

3. オキナワ問題

(1) (米側の2大問題点) ロ長官より、米政府としては

(イ) 極東、特に韓国、台湾のほかSEATO地域の安全保障についてのCREDIBILITY保持、即ちピョニヤン等に誤解をさせぬこと及び(ロ) 議会、世論の懸念、即ち事前協議は日本のVETOであり、在オキナワ米軍は日本防衛専門とされてしまい、極東各地の自国軍支援が不可能となるのではないかと、のさい疑心が強いことが最も問題であると述べた。

(2) (安保条約と事前協議) 大臣より日本政府はオキナワの軍事的重要性は十分認識し返かん後も基地の役割が支障なく果せるようなアレンジメントを米側とともに見出したいと思う。復帰後あらゆる法律条約がオキナワに適用されるのは当然だが、安保条約による事前協議はYESもNOもいずれもあり得る。安保条約を自動継続すれば国会にかけなくてもよいが、オキナワ返かんに当つて特別取極

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

極秘

を作れば国会にかけざるを得ず、これは求めてその動を起すものでけん明でない」と述べた。ジョンソン次官は米側も安保条約の改訂を求めず、またオキナワ返かんの際のアレンジメントは同条約のわく内であるべきことに異存がない。事前協議については、大臣より、日本が主権国家である以上YESともNOともいえる形でなくてはならないと述べ、ジョンソン次官はどんなアレンジメントでもそう方の政権交替にかかわらず長期間続き得るものであり、かつ完全な相互信頼に基いたものであるべきことを強調した。

(3) (核問題) 大臣より核については大統領にも、また昨日議長にも申し上げたとおりであると述べたが、ジョンソン次官は、核はいつでも使えるという態勢にあつてこそ抑止力を発し、使えないということがはつきりすればかえつて戦争が防止出来なくなると指摘し、米側としてはこの点MOCH CONCERN AND STRONG RESERVATIONSを持っていると述べた。

(4) (今後の進め方) 「ロ」長官より総理が訪米される11月まで時間も少いのでそう方とも気合を入れて解決に向つて前進しよう」と述べ、大臣より明日の中食会及び第3次会談で今後の作業の進め方を打合せたいと述べてオキナワ問題の討議を終えた。

4. プレス対策

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

極秘

「ロ」長官より本日の会談は大成功であり、今後そう方の満足する解決に希望をもたせたが明日記者会見があるのでその旨強調したいと述べ、大臣からプレスへは「今までの建設的なディスカッションの結果共通目的に向って話し合いを進めることとなつた。これからの段階は極めて困難と予想されるがそう方でちえを出し合つて努力して行きたい」と言うこととしたいと述べ、先方も同意した。

(7)